

1. 講義

受講人数、講義の指導、講義内容、ハーバード特別講義については概ね好評であったが（良かったと回答した者が半数～8割強）、宿題・レポートについて良かったと回答した者は約3割であった。良かった点としてバックグラウンドの多様性、発言や質問のしやすさ、講義と学生同士でのグループワークやディスカッションが織り込まれるスタイル、教員の経験談や外部講師の講義が挙げられた。一方、改善すべき課題として熱心さなどの教員格差、学生の理解度のばらつきへの配慮、MPHに必要ではないと思われる講義内容があったこと、事前資料をアップするタイミングの遅さ、課題の量、提出物に対するレスポンスのなさや模範解答の提示がない課題があったことが挙げられた。ハーバード特別講義では、外部受講者の少なさや日本人によるフォローの不十分さが指摘された。他にはカリキュラムやLMSによる情報共有についても課題が挙げられた。

2. 課題研究

研究指導員の指導・回数やグループ指導体制・回数については半数程度が良かったと回答した。一方、課題研究の決定時期と方法、研究費、研究内容、評価方法、研究期間・日程、課題報告書の作成について良かったと回答した者は概ね1～2割程度であった。良かった点として、発表会やグループ指導において多様な意見を直に聞ける点や統計相談会が挙げられた。どの教員も快く相談に乗ってくれたとの声もあった。一方、改善点としては、課題決定や研究のデータソースに関する入学前の説明・オリエンテーションの実施、テーマを決める際に十分に話し合う場を設けるとともにバックアップ体制をしっかりとすること、研究相談をしやすいするための教員からの研究内容の紹介、課題研究の指導方法や指導密度の教員間でのばらつき、問題意識形成のための適切な指導、課題研究を指導する教員を評価する制度の導入、グループ指導の時期、研究費の利用についての事前通知が挙げられた。評価方法ではコンピテンシー項目の評価尺度としての妥当性、大学院生同士での評価の困難さについて指摘があり、日程面では1年コースでの課題研究は厳しいためコースワークのみとする（または選択制）、発表会関連では、発表時間の短さや実施時期、事後の指導体制が挙げられた。報告書はフォーマットへの記載事項を明確にすることや、すぐ論文化できるフォーマットにすべきとの声があった。

3. 学内施設等

講義室、院生室、図書館、PC環境、情報・システム等、アカデミックアドバイザーについては概ね好評であり、約半数～8割強の学生が良かったと回答した。特に院生室は5階の明るく広い部屋を使用できた点などが良かった点として挙げられた。独自の制度として設置しているアカデミックアドバイザーは親身な相談や分野が違う教員と接することができたこと好評であったが、一部に年度途中での変更があったことや、立ち位置が不明瞭といったことが改善点として指摘された。